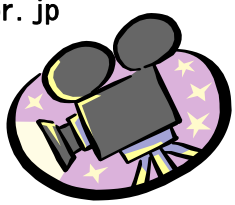
社会福祉法人 はるかぜ福祉会

はるかぜ通信

65号

編集・発行　障害福祉サービス事業所　はるかぜ
発行日　平成２７年７月２４日
〒816-0849　福岡県春日市星見ヶ丘一丁目８番地
TEL：092-595-3179　FAX:092-595-3174
E－mail：info@swc-harukaze.or.jp



ナイスショット！！

貼り絵で交流！

７月１５日（水）春日市立須玖保育所の年長のみなさんと、はるかぜ生活介護の利用者の方たちとの交流会が開かれました。

普段から、園児の皆さんには牛乳パックやアルミ缶を集めていただいており、リサイクルを意識して毎年「紙漉き交流会」をおこなってきましたが、今年は、生活介護の皆さんが取り組んでいる創作活動の一つから、カレンダーの原画（貼り絵）を皆さんに見ていただき、全員が小さな作品を一つ作るという交流会にしてみました。

事前に牛乳パックをリサイクルして作った台紙に「木」のイラストを下絵に描いたものと、同様に牛乳パックから作った色紙を６色準備し、園児のみなさんを５グループに分けて、はるかぜの利用者の方はその中の３グループに分け入って、各々思い思いに貼り絵で「木」を表現しました。

交流会は２時間ほどで、初めての試みでしたが、誰もが世界で一つしかない自分の木を作りあげ、４０名あまりの園児のみなさんと、賑やかに楽しく交流できました。ありがとうございました。

活 動 報 告 その1

「家族会のちから」

はるかぜには、利用者の方のご家族の集まり「家族会」があります。

２ケ月に１度 定例会をされ、はるかぜからの活動報告や、情報交換・意見交換などがおこなわれています。

その、家族会の皆さんが６月６日（土）、はるかぜの施設周辺の草取りをおこなってくださいました。

当日は、梅雨入りして５日目でしたがとてもいい天気！

ちょうど前日に降った雨をたっぷり土が含んでくれて、柔らかく、草を抜くのに力もいらず、とても楽に取れました。

いつもながらに、にぎやかなお母さん方の笑い声の中、手際よく、見る見る間にはるかぜの周りは、すっきり、とてもきれいになっていきました。

中には、お休みの日にもかかわらず、ご家族と一緒に草取りをされた利用者の方たちもおられ、そこには、普段なかなかお顔を会わすことができない、お父様の姿もありました。

皆さん額に汗でしたが、和やかなひと時でもありました。

ご家族同士のつながりが、利用者さん同士のつながりとなって、日頃の活動の中で温かさを感じることがあります。

家族会は、はるかぜにとって心強い応援団です。いつも陰になり日向になり、はるかぜを支えてくださっています。

皆様ありがとうございました。

「楽しく創る」

はるかぜ生活介護の利用者の皆さんでおこなう創作活動の中に、フェルト小物作りがあります。

外部講師フィッシュ先生の毎回楽しいワークショップの体験を重ねて、皆さん小物づくりが上手になってこられました。色とりどりのカラーフェルトに糸やレース、布等、素材選びは無限に広がります。

フィッシュ先生から学んだものからは、丸いフェルトボールやコップのカバー、コースター等々、豊富なバリエーションが生まれてきます。これらに、職員や他の利用者の方がデザインを加えると、かわいいキーホルダーやストラップ・ブローチなどの商品に変身です。販売の時にお客様が手に取られ、「どれにしようかな～？」と迷ってくださると、嬉しくてそして励みになります。

「素敵な商品！」として気に入った品物を選んでいただきたいからです。

活 動 報 告 その2

「利用者のみなさんの願い事を・・・」

今年は、利用者の皆さんに季節を感じ、楽しんでもらおうと、
７月７日の七夕に合わせて笹を準備しました！
飾りは「訓練班」の皆さんが協力して作りました。彦星と織姫の絵を色鉛筆で塗ったり、鋏を使用して線を引いた折り紙を切って、糊で貼ったりして、とても楽しそうに飾りを作られました。

色を塗りながら「織姫ちゃんと彦星ちゃん何色が好きかな～」や、
「さ～さのは～さ～らさら♪♪♪」と歌をうたいながら飾り作りをされました。飾りが完成すると早速「早く笹に飾らないと！！」と、張り切る「訓練班」でした・・・。

さて、お願いごとの短冊作りは、就労Ｂ・生活介護・訓練班・それぞれのチームの“生活訓練”の時間におこなうことになりました。

始めは、「何を書こう？」「どうしよう？」と悩まれている方もおられましたが、職員とやり取りをしながら、お願いごとを考え、丁寧に短冊に書かれていました。
「好きなアイドルや芸能人に会いたいです」と書かれたり、「好きな食べ物をたくさん食べたいです」とお願いされた方、中には、織姫や彦星のように「〇〇の作業を頑張ります」とお仕事の抱負を書かれた方など、皆さん、それぞれの思いを短冊に記されていました。

願いごとを書かれた後は、各自で短冊を笹に飾りつけてもらいました。
丁寧に短冊を笹に結び付け、手を合わせてお願いをする姿も見られ、また、誰も短冊をさげていない場所を探し、こっそり（？）と楽しみながら飾りつけをされている方もいました！

出来上がった七夕飾りを入り口に立てかけると、「綺麗だね」「私の短冊どこかな？」と、皆さん嬉しそうな様子でした。

日常の作業（仕事）の合間に、季節の祭事に触れることができた、大切なひと時でした。

今年の七夕は、あいにく雨雲に覆われていましたが、きっとカササギの鳥が羽をひろげて橋を作ってくれて、織姫と彦星も会うことができ、みんなの願い事も届いたことでしょう・・・・。

「頑張ってます！施設外就労チーム」

喫茶オルゴールでの施設外就労がスタートして、３ケ月が経ちました。
挨拶の仕方、注文の受け方、料理の運び方、会計での挨拶など、上手になって、お客様に喜んでいただけるように頑張っています。

ちょっとコラム

「徘徊を散歩にする社会」

徘徊を散歩や外出にする懐の深い社会

ある日、歩いている母親の１０メートル後方から注意深く見守り・同行？する家族を見かけたので「お母さんが一人で歩いているのを見かけたときは、連絡しましょうか・・・」と声をかけた。しかし「よかです」とやんわり断られた。これ以上話す機会もなく、この家族の思いは分からなかった・・・。

★現在、統計では認知症の徘徊高齢者は、日本全国に１万人。本人たちは徘徊ではなく、散歩や外出である。本人たちの尊厳を大切にするには、徘徊を散歩や外出にする環境が必要である。その最初の一歩は、私たちが認知症の特性を理解し、まちかどで出会ったら、お節介と感じても勇気を出して声をかけ、対応に困ったら関係機関（地域包括支援センター、行政、警察など）につなぐこと。

★認知症高齢者も一人で安心して散歩や外出できる懐の深い社会が望まれる。

（松尾）

平成２７年度　出前トーク 市長と語る

平成２７年７月５日（日）福祉ぱれっと館地域交流スペースにおいて、障害のある方や福祉関係団体等を対象にした、出前トークがおこなわれました。

今回は、市から「春日市の学校における人権教育について」と題し、各小中学校での人権教育の取り組みを紹介されました。市長の挨拶の中で、市政の状況として①高齢化に伴う医療・介護の課題について　②こども医療費助成支給対象の拡充について ③建設中の総合スポーツセンターと雨水貯留施設の整備（ふれあい文化センター駐車場地下）について説明がありました。

出席された障害福祉関係者の方々との意見交換では、①市内小学校に通う児童の保護者からいじめ等の相談を受けている　②今回配布された資料に様々な障害がある方等に対する配慮がなかった　③地域の中で差別的な言葉を言われている　④春日小学校と福祉ぱれっと館の境界に設置されたフェンスについて　⑤災害時の避難場所や防災訓練について　⑥市内中学校特別支援学級にエアコンの設置のお願い　⑦オストメイト（人口肛門・人口膀胱を保有された方）の会の紹介など、意見や質問が出されていました。

はるかぜでも災害時の対応策は、課題の一つでもあり、今後地域や関係者等での訓練の機会があれば、積極的に参加していきたいと思いました。

ありがとうございました！！

※ご寄付　　〇まりも工芸　様　　〇第一製薬　　様（自動販売機設置）